

ス M 「SEED-MSV」

ストライクルージュ IWSP

機体名	ストライクルージュ IWSP	画像
型式番号	MBF-02(P202QX)	
英語名	STRIKE ROUGE	
所属	オーブ	
パイロット	カガリ・ユラ・アスハ	
装甲材質		
装備	75 ミリ対空自動バルカン<イーゲルシュテルン> <コンバットナイフ<アーマーシュナイダー> × 2115 ミリレールガン× 2105 ミリ単装砲× 29.1 メートル対艦刀× 2 コンバインド・シールド (30 ミリ 6 銃身ガトリング機関砲/ビーム ブーメラン)	
作品名	SEED-MSV	
参考書籍	ニュータイプ 2004 年 6 月号 PS2 機動戦士ガン ダム SEED 終わらない明日へユニットビュー アー	

内容

内容 (ニュータイプ 2004 年 6 月号)

エールの翼、ランチャーのレールガン、ソードの剣とブーメラン。

「全部のっけてみました」という究極ストライカーパックだ。

設計図のみが存在していたが、オーブが資料を着服して実作してしまった。

ただし、扱いが難しく、カガリには使いこなせなかったというオチ付き。

内容 (PS2)

IWSP は統合兵装ストライカーパックの意味を持つ。

単機能型ストライカーパックに対する競合案として、PMP 社によって開発されたもの。

構造が複雑でコストがかさむという問題があり、またパワーを多量に消費することも問題となった。

開発時は、小型・高性能のパワーパックが完成することを見越して設計されたが結局、完成にはいたらなかった。

パワーパックの技術にはオーブに一日の長があり、最終的に IWSP 運用を可能とするパワーパックの開発に成功したオーブは、PMP 社の設計をもとにオーブ本国で実製作。

ストライクルージュ用の装備として日の目を見ることとなった。

したがってルージュではなく、ストライクに IWSP 装備した機体は、シミュレーション上の物で実機は存在しない。

なお、IWSP の型式番号 P202QX も連合ではなくオーブの番号である。

内容 (第 3 次スーパーロボット大戦)

ストライクルージュ が IWSP パックを装着した姿。IWSPとは「Integrated Weapon Striker Pack (統合兵装ストライカーパック)」の略である。ストライクに地上および宇宙空間における近・中距離の高機動総合戦闘能力、超長射程火炮によるアウトレンジ砲撃能力、対モビルスーツ・対艦接近戦能力を盛り込むというコンセプトのもと、大西洋連邦の P.M.P 社が開発した。他の3パックの武装をひとまとめにしたような形状をしており、高性能だが大量のエネルギーを必要とし、従来のパワーパックではエネルギー供給が間に合わなかったため、採用が見送られた。

オーブのモルゲンレーテ社で新たに開発されたパワーパックを搭載することで、初めて実用に成功す。オーブ敗退の際、ストライクルージュとともに部品をクサナギに搭載され、艦内で組み立てられる。

運用試験で期待通り上々の性能を発揮するも、扱うには熟練した操縦技術が必要だと判明したため、第二次ヤキン・ドゥーエ宙域戦においては使用されなかった。

備考

スペック

項目	内容
全高	17.72m
頭頂高	
全長	
本体重量	
全備重量	64.8t
ジェネレーター出力	
スラスタ推力	
センサ有効半径	